

記入例

産業界との融合的連携研究制度研究計画書

1. 研究開発課題名

〇〇〇〇開発

2. 研究目標

〇〇〇〇の限界を打破し、〇〇〇の効果が期待される、〇〇〇として有望な〇〇〇〇について、国立研究開発法人理化学研究所が実用化に必要な要素技術の研究開発を行い、〇〇〇〇(株)は理研が開発した技術及び試作した〇〇〇〇を基に商品化のための研究開発を行う。

3. 研究期間

平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日

4. 全体計画

〇〇〇〇による〇〇〇〇を平成 34 年 3 月までに設計し、〇〇〇〇性能を持つ〇〇〇への製品応用を図る。

(1) 〇〇〇〇の〇〇〇〇を利用した〇〇モデルの検討

〇〇〇〇から発生する〇〇〇〇による対象物質の〇〇〇〇を把握する。

(2) 〇〇〇〇の〇〇〇〇の定量的評価

評価対象とする〇〇対象物質に対し、〇〇〇〇による〇〇性能を計測・分析する。

(3) 〇〇メカニズムの解析と〇〇性能向上のための設計指針検討

ベースとなる〇〇〇〇を用いた(2)の検討結果を基に、〇〇性能向上のための設計指針を示し、〇〇性能向上のための技術検討を実施する。

(4) 〇〇〇〇の基本設計と試作検討

〇〇機能を有する〇〇〇〇を設計し、〇〇〇〇への〇〇〇〇などを実施して、製品レベルでの評価を実施する。

(5) 〇〇中の〇〇相互作用等を利用した、応用可能性探索((1)、(2)の検討状況から時期について判断する)

〇〇間の〇〇現象等を応用し、他の〇〇機能の設計を実施する。

(6) 〇〇性能評価系の装置化

〇〇雰囲気での〇〇発生量の〇〇装置の開発を実施する。

I 研究チームの研究計画

1. 研究内容及び年度計画

項目	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
	①○○○○の開発					
1)実験設備の整備		→	→			
2)○○○○の開発			→	→		
3)○○○○試作				→	→	
4)○○○○の評価					→	→
②○○法の開発						
1)○○○○		→	→			
2)○○結果のフィード バック			→	→	→	
3)○○○○の製作		→	→	→	→	→

①○○○○の開発【全体計画（1）】

○○○○の○○○○及び○○○○を整備し、○○○○へ○○○○と○○○○を○○して○○する○○○○を○○する。この○○○○を○○○○として○○○○の開発を行う。

(マイルストーン)

- 平成 29 年度：○○○○、○○○○ための○○実験装置を稼動するのに必要となる付帯設備を設計し、○○装置の発注及び製作を行う。
- 平成 30 年度：○○○○の製作を行い、○○が製作する○○○○との○○後、○○○○を行う（数値：○%以下）
- 平成 31 年度：○○装置を用いて、○○○○の開発を行い、○○○○に○○○○を行う。（数値：○%以下）
- 平成 32 年度：前年度までに開発した○○○○の○○○○を用いて、○○○○の試作を行う。（○分布：±○%以下、○分布：±○%以下）
- 平成 33 年度：目標値を満たす○○○○を作製する。
目標値 ○○○○を○○○○及び○○○○：±○%以下、○○：○%以上

②〇〇法の開発【全体計画（2）】

〇〇〇〇により〇〇〇〇の評価を行い、〇〇プロセスへフィードバックを行う。また、この評価を基に〇〇装置の開発を行う。

(マイルストーン)

- ・平成 29 年度：〇〇〇〇により、〇〇評価を行うことにより、〇〇〇〇能力の把握を行う。
- ・平成 30 年度：〇〇〇〇を導入することにより〇〇法の最適化及び高機能化を行う。(数値：〇%以下)
- ・平成 31 年度：〇〇分析し、〇〇〇〇へフィードバックする。〇〇分解能〇nm 以下、〇%以下、〇%以下及び〇時間以内での装置を製作する。
- ・平成 32 年度：〇〇〇〇の〇〇〇〇を製作する。(数値：〇%)
- ・平成 33 年度：〇〇装置を目標値のとおり完成する。
目標値 〇〇〇〇:〇nm 以下、〇〇度:〇%以下、〇〇〇〇:〇%以下

2. 研究予算

単位：千円

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
①					
②					

①：甲の予算

②：乙から甲への一部負担金（消費税及び地方消費税を含む）

※②の負担金は、必要な経費を差し引いて研究チームの予算に充当する。

3. 研究実施場所

埼玉県和光市広沢 2-1

国立研究開発法人理化学研究所 和光 棟 号室

4. 研究チームの構成員

氏名	役職	備考
〇〇 〇〇	チームリーダー	非常勤（〇〇(株) 〇〇事業部〇〇グループ グループリーダー）
〇〇 〇〇	副チームリーダー	兼務（国立研究開発法人理化学研究所 〇〇センター〇〇チーム チームリーダー）
〇〇 〇〇	リサーチアソシエイト	常勤
〇〇 〇〇		兼務（国立研究開発法人理化学研究所 〇〇センター〇〇チーム 研究員）

〇〇 〇〇	客員研究員	非常勤 (〇〇株 〇〇事業部〇〇グループ 研究員)
-------	-------	------------------------------

II 乙の研究計画

1. 研究内容及び年度計画

項目	年度				
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
①○○○○の開発					
1)実験設備の整備	→				
2)○○○○の開発		→			
3)○○試作			→		
4)○○○○の評価				→	
②○○法の開発					
1)○○○○	→				
2)○○結果のフィードバック		→			
3)○○○○の製作	→				

①○○○○の開発【全体計画（1）】

○○○○の○○○○及び○○○○を整備し、○○○○へ○○○○と○○○○を○○して○○する○○○○を○○する。この○○○○を○○として、○○○○の開発を行う。

(マイルストーン)

- 平成 29 年度：○○○○、○○ための○○実験装置を稼動するのに必要となる付帯設備を設計し、○○装置の発注及び製作を行う。
- 平成 30 年度：○○○○の製作を行い、○○が製作する○○○○との○○後、○○○○を行う（数値：○%以下）
- 平成 31 年度：○○装置を用いて、○○○○の開発を行い、○○○○に○○○○を行う。（数値：○%以下）
- 平成 32 年度：前年度までに開発した○○の○○○○を用いて、○○○○の試作を行う。（○分布：±○%以下、○分布：±○%以下）
- 平成 33 年度：目標値を満たす○○を作製する。
目標値 ○○○○を○○○○及び○○：±○%以下、○○：○%以上

②〇〇法の開発【全体計画（2）】

〇〇〇〇により〇〇〇〇の評価を行い、〇〇プロセスへフィードバックを行う。また、この評価を基に〇〇装置の開発を行う。

（マイルストーン）

- ・平成 29 年度：〇〇〇〇により、〇〇評価を行うことにより、〇〇能力の把握を行う。
- ・平成 30 年度：〇〇〇〇を導入することにより〇〇法の最適化及び高機能化を行う。（数値：〇%以下）
- ・平成 31 年度：〇〇分析し、〇〇〇〇へフィードバックする。〇〇分解能〇nm 以下、〇%以下、〇%以下及び〇時間以内での装置を製作する。
- ・平成 32 年度：〇〇〇〇の〇〇〇〇を製作する。（数値：〇%）
- ・平成 33 年度：〇〇装置を目標値のとおり完成する。
目標値 〇〇〇〇:〇nm 以下、〇〇度:〇%以下、〇〇〇〇:〇%以下

2. 研究予算

単位：千円

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度

3. 研究実施場所

〇〇県〇〇市〇〇区〇〇町〇〇

〇〇株式会社〇〇研究所

4. 研究参加者

氏名	役職	備考
〇〇 〇〇	グループリーダー	〇〇(株)〇〇研究所
〇〇 〇〇	マネージャー	〇〇(株)〇〇研究所
〇〇 〇〇	研究員	〇〇(株)〇〇研究所